

# mRNAワクチン 福島から

東日本大震災11年

## 年10億人分工場計画

東京電力福島第一原子力発電所事故で被災した福島県南相馬市で、新型コロナウイルスワクチンや薬の製造・研究に向けた医薬産業の集積が進んでいる。雇用を生み、住民の帰還や移住を促す期待も大きい。

〈関連記事特別面〉

アルカリスが建設する工場のイメージ図（同社提供）

福島第一原発から北に約20キロ離れた下太田工業団地。原発事故で緊急時避難準備区域となった2・3号地の土地で15日、医薬新興企業「アルカリス」（千葉県）の新工場が着工する。

福島県の産業復興に向けた国の「福島イノベーション・コースト構想」の一環で、2024年以降に新型

コロナウイルスのメッセンジャーRNA（mRNA）ワクチンを年間10億人分生産する体制を整える。

mRNAワクチンの大規模な製造工場は、東日本で初となる。完成後、米製薬企業「アークトウルス」がベトナムで承認申請中の新型コロナワクチンを製造する計画だ。国内企業のワクチンを受託製造する交渉も進んでいる。



アルカリス社長の藤沢朋行さん(55)＝写真＝は、武田薬品工業で約20年研究職を務めた後、起業

した。首都圏から常磐道やJRで結ばれた広い土地にひかれ、福島進出を決めた。

25年に製剤工場を増設し、脳梗塞やひざ軟骨再生用の薬の受託生産も始める予定だ。

藤沢さんは長野県出身。福島には縁がなかったが、

若い頃にキャンプや虫捕りを楽しんだ長野県栄村が東日本大震災の翌日に震度6強の地震に見舞われ、復興に歩む地域に思いを寄せるようになった。「人の健康を守る医薬品を、震災に見舞われた福島から世界に送り出したい」と意気込む。

福島イノベーション・コースト構想で、医療関連産業は2年前に重点分野に追加された。これまで内陸の郡山市に医療機器メーカーなどが集まっていたが、沿岸にも進出の動きがある。

昨年11月には福島県立医科大学のサテライト施設が南相馬市に開所した。新型コロナやがんの遺伝子解析を行って抗体を活用した医薬品の製品化につなげ、アルカリスとも連携するという。県の担当者は「医療関連産業は復興や地域経済への貢献度が高い」と期待する。

